

■日程：2024年4月24日（水）～4月27日（土）

■ボランティア参加者数：12名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
4月25日（木）	穴水町諸橋地区 仮設住宅団地	11名
4月25日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	15名
4月26日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	32名
4月26日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	35名

■被災者の声（主なもの）

- ・被災後デイサービスにいけないため娘が休職して介護している。再開見通しがたらず経済的にも大変、不安。このような外に出てくる機会があることはありがたい。
- ・ボランティアを申請したが、まだ反応がなく来ていない。
- ・夜になると何もすることがないので、これからどうしたらよいか、と落ち込んでしまう。
- ・ようやく仮設住宅に入れた。これまでお父さん（夫）の墓に行くのに40分かけて歩いて行っていたけど、これからは20分ですむ（80代女性）
- ・こうして集まって話ができるとストレス解消になる。本当にありがとう。来週もまた来るよ（50代女性）
- ・ウチは堤（つつみ）が大丈夫だったから先週から田んぼに水を入れられたけど、堤や用水路（パイプライン）がダメな地区は今年は田んぼをやれないだろうから本当に気の毒だよ（70代男性）
- ・隆起により船が乗り上げてしまい漁に出られない。高齢ということもあり廃業を検討中。これからは漁のいい時期
- ・あらー。〇〇さんの奥さんなの？大丈夫だった？元気だった？

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・ほとんどの世帯で子供世帯が遠方に出てしまっており、頼れる人が周りにいない、頼りづらい状況が課題だと感じた。復旧作業は基本的に一人で作業している姿が目立った。普段の食事は「当然自炊している」と話しており、支援物資の中でもガスコンロの需要がかなり高かった。
- ・「～さんのところは△△に避難しているみたいだよ」等、ご近所の方々の震災後の様子を情報交換していた。会話の中で「そうなんだ～」「知らなかった」という反応が多かったことから、震災後こうして集まって情報交換できる場はあまりなかった様子がうかがえた。

